

2005年 月 日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

「みんなでたのしく輪になって」No. 21

【発行】 熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課

今年は、10月末の、熱い、熱い「火の国くまもと」ボランティアフェスティバルが終わり、その後めっきりと冬を感じさせる日々が続いています。周りには風邪を引かれている方も多いのではないのでしょうか？

今回のメールマガジンは、10月末に実施されました第14回全国ボランティアフェスティバルの様と10月20日にオープンしました「健軍くらしささえ愛工房」の取り組み情報を中心とした特集号第2弾として、お知らせしたいと思います。

【今月の内容】

〈ボランティアフェスティバル情報〉

1 ~ 「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」を終えて~

〈「健軍くらしささえ愛工房」情報〉

1 ~ 「地域の縁がわ」モデルづくり~

「健軍くらしささえ愛工房」がオープンしました！

2 近隣小・中学生を対象にしたボランティア体験学習がスタート

3 ~ みんなで育てよう！けんぐんっ子~

地域福祉基金助成事業子育て・家族支援者講座もまもなくスタートします

ボランティアフェスティバル情報

~ 「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」を終えて~

「第14回全国ボランティアフェスティバル火の国くまもと」は、天気にも恵まれ、すばらしい大会となりました。

この29日(土)・30日(日)の2日間、県内6ブロックで開催されましたが、大会を通じて参加登録者数は5,700人を数え、一般の参加者も加えますと延べ約8万2千人の方々にご参加いただきました。県内各地で地域のボランティアとのふれあい、語り合いや活発な交流が行われ、参加者の皆様にとっても感動にあふれた大会になったのではないかと思います。

また、各会場で頑張っていた学生ボランティア、高校生による力強い火の国アピール、山鹿灯籠踊りや牛深ハイヤ節、県立盲学校アンサンブル部の演奏などに触れて、これからの熊本を支えていく若い人たちのエネルギーを大いに感じることができました。

開催準備や当日の大会運営では、約2500人のボランティアがアイデアいっぱいの大会づくりに務めていただき、(中には、95歳になるボランティアの方が4日間連続で資料の袋詰めのお手伝いをいただきました。)さらに、全国から参集していただいた皆様に熊本のファンになっていただこうと、おもてなしの心でお客様をお迎えし、参加された方から、「熊本の大会は本当に感動しました。」「熊本のボランティアの熱い心を感じました。」というようなお言葉もいただきました。

ボランティアは、身近な保健・福祉分野から環境、国際交流、災害復旧など幅広い分野で活動されており、今や私たちの生活の中でなくてはならない大きな役割を担っておられます。

少子高齢化の進展や核家族化が進展し、地域力が弱まりつつある中、地域で支え合う地域共生の社会づくりは県政の重要課題となっています。また、地域や個人の多様なニーズにきめ細やかに対応していくためには、行政の取組みと併せて、地域住民をはじめ、ボランティア、NPOによる支え合い活動が大きな役割を果たすと考えております。県内のボランティア活動がさらに活発になり、ボランティアの輪がさらに広がり、地域共生型社会の担い手として大いに貢献していくことを期待しております。

この大会の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜りましたボランティアをはじめとする関係者の皆様に、重ねてお礼を申し上げます。

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

県ホームページ、「ボランティアフェスティバル特集」

<http://www.pref.kumamoto.jp/monthly/index.asp>

ボランティアフェスティバル公式ホームページ

<http://www.vf-kumamoto.jp/> URL : <http://www.vf-kumamoto.jp/>

「健軍くらしささえ愛工房」情報

1 ～「地域の縁がわ」モデルづくり～

「健軍くらしささえ愛工房」がオープンしました！

住み慣れたところ、顔なじみの関係の中でお互いに支え合う「地域の縁がわ」のモデルとして、県が県営健軍団地に併設して整備し、NPO法人おーさぁが運営する「健軍くらしささえ愛工房」が、10月20日（木）にオープンしました。

10月20日（木）開所式当日は300名を超える地域の方々に出席いただき、潮谷知事出席のもと、健軍商店街、地元自治会、NPO法人代表の小笠原氏によるテープカットが行われ、地元の保育園の園児による御祝いの歌、そして、あたたかい「だご汁」と「ぜんざい」でお客様を迎えました。「だご汁」「ぜんざい」づくりでは、地元町内の住民の方々がボランティアとなって大活躍されました。後で町内会長さんに伺うと、「これまで町内の皆さんでこのような催しをしたことがなく、力を合わせれば、こんなことができるのかと感動しました」とのこと。地域の皆さまに支えられ、「地域の縁がわ」モデルにふさわしいスタートでした。

ここでは、介護保険の他、自主事業を行うことによって、地域の誰もが利用できるようにした通所サービスや、訪問サービス、その他、子育て中の方への交流の場の提供や、障害を持つ当事者が働く喫茶サービスなど、地域の在宅生活を支えるためのサービスが始まり、通ってこられる高齢者や遊びに来られる親子連れなどの日常的な交流が行われ、館内全体がホッとする雰囲気を作っています。

是非本メールマガジンの読者の皆さまにも一度お立ち寄りいただき、その雰囲気を感じていただきたいと思います。施設見学や事業内容については、NPO法人おーさぁ又は福祉のまちづくり課までお問い合わせください。

NPO法人おーさぁ

住 所：熊本市栄町2 - 15 県営健軍団地1階

電話番号：096 - 214 - 0003

F A X：096 - 214 - 0005

2 近隣小・中学生を対象にしたボランティア体験学習がスタート

健軍くらしささえ愛工房では、福祉サービスの提供だけでなく、「地域の縁がわ」を支えてくれる担い手の育成を行っていくこととしています。そのような活動の一つとして、近隣の小・中学生を対象としてボランティア体験学習がスタートしました。

第1回は11月8日(火)に健軍小学校で行い、4年生の生徒128名が参加。車いす使用の当事者の方々5名に講師になっていただき、車いす使用で不便なことや困ったことなど、体験談を交えた講話と、子ども達に実際に車いす体験を行っていただきました。子ども達からは「段差が怖い」「うまく前に進めない」など車いすを利用する際の難しさや「お手伝いしましょうか?の声かけが大事」といった声が聞こえていました。また、「スーパーの障害者用駐車スペースには駐車してはいけない」という意見も挙がり、子ども達に多くの気づきがあったようです。

この他、若葉小学校、泉ヶ丘小学校でも、車いす体験の他、健軍商店街での車いすスタンプラリー、車いすバスケット、ユニバーサルデザインの美容室見学など、地域資源も活かした多彩な企画が計画・実施されています。

また、これらの活動には、学生などのボランティアも増えてきており、このような活動がきっかけとなって、健軍くらしささえ愛工房を中心に、地域の子も達が、地域福祉を支える担い手となって活躍してくれる地域づくりを目指しています。

3 ~みんなで育てよう!けんぐんっ子~

地域福祉基金助成事業子育て・家族支援者講座もまもなくスタートします

子育て真っ最中のお父さん、お母さんや、子育てをお手伝いしたいと思っていらっしゃる地域の方々を対象に、子どもを育てる中で手助けして欲しいところ、また手助けできるところと一緒に考える「みんなで育てよう!けんぐんっ子」子育て・家族支援者養成講座が、講演会も含めて、12月7日(水)からスタートします。

内容は、「子どもと遊ぼう(体を動かそう)」「子どもと遊ぼう(おもちゃを手作りしよう)」「地域で子どもを育てるといこと(いまどきの子ども事情)」、講演会「あったらいいな こんな場所・こんなサービス・こんな街」など全11回(講演会も含む)です。

スーパーバイザーとして熊本県・市ボランティア連絡協議会会長の潮谷愛一氏をお迎えし、アドバイザーとして保健師やスクールカウンセラー、幼稚園教諭、企業の人事担当者をお呼びする予定です。子どものこんなところがわからなくて・・・、こんなことなら手助けできるんだけど・・・という方に、一緒にこれからの子育てを考え、暮らしを作り上げていくことを目指しています。

熊本県地域福祉メールマガジン

「みんなでたのしく輪になって」 No. 2 1

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部 福祉のまちづくり課 まちづくり推進班へお願いします。
(電話番号が変更になっておりますので御注意下さい)

E-mail: fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL: 096-333-2202 FAX: 096-387-5992